

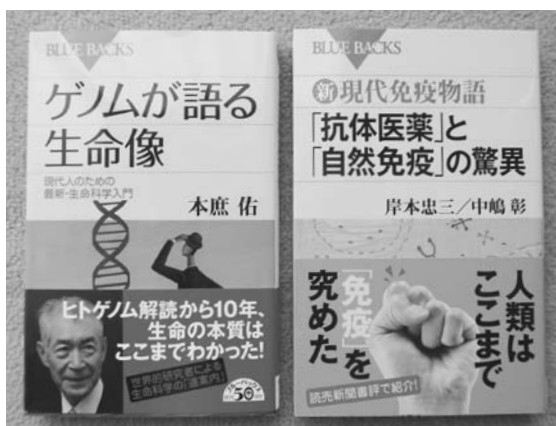


地区大会のゲストたちを知るガイド

12月4日・5日に開催される地区大会まであと1カ月。今月は、この大会にかけつけていただいたゲストにかかわる情報を提供いたします。【佐野吉彦】

5日午後開催される特別シンポジウム「関西発の医療イノベーション—最先端研究から創薬へ」には大阪大学名誉教授の岸本忠三（きしもと・ただみつ）先生、京都大学名誉教授の本庶佑（ほんしょ・たすく）先生が登場されます。先月号で松澤佑次・実行委員長から紹介があったように「お二人の例は、免疫難病治療やがん治療の基礎研究で自ら発見した分子から特効薬を作ることに成功した、世界でも珍しいもの」です。

まさにお値打ち物の講演ですので、お聴き逃しなく。両先生には多くの著書がありますが、比較のお求めやすいものとして、〈新・現代免疫物語—「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異〉（岸本忠三／中嶋彰・著2011）と〈ゲノムが語る生命像—現代人のための最新・生命科学入門〉（本庶佑・著2013）が、講談社ブルーバックスから刊行されています。いずれも生命科学・医薬にかかわる最新の研究成果をわかりやすく解説する好著です。この分野が何を目指して進んできたのか、進んでゆくのかは当日明らかにされるでしょうが、ぜひ事前あるいは事後のサブテキストとしてお役立てください。



5日午前は、ヴァイオリニスト・庄司紗矢香さん、ピアニストの小菅優さんのおふたりのコンサートです。

それぞれ、世界各地での公演やCDなどで高い評価を得ておられますが、youtubeでも演奏がアップされています。庄司さんは第46回パガニーニ国際音楽コンクールで、コンクール史上最年少かつ日本人初の優勝を遂げたことで有名。シベリウスの協奏曲などの名演が印象的です。今回のベートーヴェンのソナタ〈春〉は、CDが発売されている、彼女の十八番です。小菅さんはさらに人気の高いピアニストで、音楽のスケールに大きさがある人です。とりわけベートーヴェンのピアノソナタや協奏曲が定評のあるところで、今回の〈春〉での伴奏は大いにエキサイティングなものとなるでしょう。滅多に実現しない絶品のデュオをお楽しみください。

あわせて、4日の晩餐会に出演する関西二期会による喜歌劇「こうもり」は、観衆の心を和やかに包むものとなるはず。舞台は19世紀末のウィーン。華やかな一夜の物語を、素敵な音楽が語りつくします。



庄司紗矢香さん
©Kishin Shinoyama



小菅 優さん
©Marco Borggreve

[2660地区大会・案内]

2015年12月4日(金) リーガロイヤルホテル
5日(土) 大阪国際会議場

12月4日(金) 18:30予定

RI会長代理夫妻歓迎晩餐会

12月5日(土) 11:00予定 夢のデュオ・コンサート

13:15予定 式典

15:00予定 特別シンポジウム